

段ボール箱や袋いっぱいキャップ約230キを寄託した生徒ら＝三田市香下市クリーンセンター



発展途上国でのワクチン接種に役立ててもらおうと、三田市立八景中学校の生徒会が、約4年間かけて集めたペットボトルのキャップ約230キを、市クリーンセンター(同市香下)に寄託した。日本ユニセフ協会を通じ、ポリオワクチンが途上国に届けられる。(山岸洋介)

### ペットボトルキャップ 230キ<sub>口</sub>収集

## 八景中生4年かけて

### ポリオワクチン165回分に

生徒会はボランティア活動を通じて社会に役立つことをしようと、クラスごとにキャップを回収。賛同する生徒たちが自宅から持ち寄っている。

センターへの寄託は2013年度に続いて2回目。前回の寄託後に集まったキャップを集計したところ、約9万2千個、重さにして約230キになった。8月下旬、車でセンター内に搬入。始業式があった9月1日、改めて生徒会役員4人がセンターを訪れて職員に引き渡した。

センターはリサイクル業者に1キ約15円で売却。その代金で日本ユニセフ協会の「支援ギフト」という仕組みを利用し、経口ポリオワクチンを途上国に送る。キャップ約230キで換算すると、165回分ほどのワクチンに相当する。

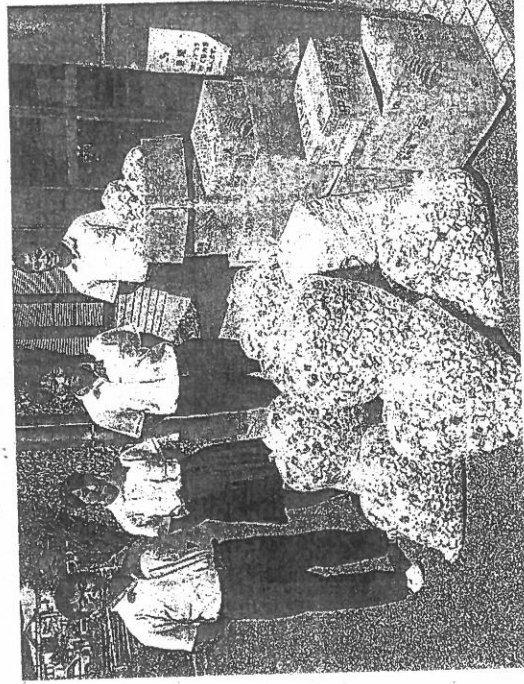
生徒会長の3年森本雄也さん(16)と、キャップ回収を担当する評議委員長の青谷拓海さん(15)は「身近に

できる簡単なことでも、一人一人の思いが集まれば助けができると思う。今後も続けたい」と話した。

センターは通常のペットボトル収集で集まったキャップの売却代金も日本ユニセフ協会に届けており、昨年度は約3740キが集まった。

## 善意の結晶 ふた9.2万個

ペットボトルのふた約9万2千個を寄託した八景中学校の生徒会役員ら＝三田市クリーンセンター



### 八景中生寄託 売却益ワクチンに

三田市立八景中学校の生徒会は1日、ペットボトルのふた約9万2千個を市クリーンセンターに寄託した。売却益はポリオワクチン約165回分になるという。日本ユニセフ協会を通じ、発展途上国に贈られる。エコキャップの回収運動

の一環。生徒らが、約4年間に家庭から持ち寄り回収ボックスで集めたふたは、約230キに及ぶ。

この日、センターを訪れたのは3年生の男女4人。評議委員長の青谷拓海さん(15)は「身近にできることが大きな活動につながる

わかった」と強調。生徒会長の森本雄也さん(16)も「ふたを集めるだけで人を

救えるなら、これからもうこうした活動をしていきたい」と誓っていた。(藤井匠)

朝日新聞  
29.9.05

H29.9.5 神戸新聞